

どう違うバイトとパートの線引きはおぼさん
か否かの線引きらしい
久松 徳子
一緒に風呂に入るみたいにごそばゆい一坪の
墓に入らうなんて
浜田ゆり子

アジア人狙った乱射の予告あり「ウォルマー
トだよ」友の警告 七月号・アダムス理恵
地下鉄でゆるむ靴紐何回も結び直して今ここ
にゐる
原 ナオ

三馬力のミニ耕運機馬三頭いると思えば豊か
なりけり 八月号・尾上 宏
長生きのおかげで逢えた宇宙人藤井聡太と大
谷翔平 九月号・小木曾 友

コロナ禍が短歌作品に与えた影響は今年
も大きかったが、去年と比べると少し違い
があると感じた。昨年は次々と起こる非日
常の出来事を驚きや発見として描かれてい
たのが、今年はコロナ禍の日常として日常
の感慨を深めている作品が多くあり魅力
を感じた。実際、三十首から外すのが惜しい
秀歌が多く、選歌にかなり苦しんだ。出来
るだけ多くの方を選びたく同一歌人の作は
一首とし、同じような素材、テーマの作品
は整理せざるを得なかった。

短歌とコロナ禍の問題を少し俯瞰して考
えてみると様々な視点や問題、今まで表面
化しなかった深層心理等が浮び上ってきて
作品にも反映されている。その中でも差別
の問題は切実で奥深いものだと考えさせら
れた。一例を挙げると七月号・アダムス理
恵作品で表現されている米国におけるアジ
ア人ヘイトも新型コロナウイルスの発生
起源が中国武漢であるという説による嫌悪
感から始まったものである。また、患者さ
ん自身は勿論、医療従事者やそのお子さん
などへの差別も記憶に新しい。日本人の同
調圧力気質、危機管理が出来ない政治の問
題なども印象深い。

もう一つ挙げるとジエンダーの問題が今
年は大きくクローズアップされることにな
った。きっかけは森喜朗オリンピック組
織委員会会長の発言からなので、逆説的に
森氏の功績は大きい。以前はウーマンリブ
運動などのように政治思想としての闘争
だったものが、現況は人間関係の問題や無
意識にこびり付いてしまっている意識の問
題として考察され、われわれの日常に大き
くかわってくる問題と感じた。伊藤亜佐
里、久松徳子作品はそうした問題に真直ぐ
に向き合い鋭い告発を含みつつ詩的な作品
であり、田川喜美子、浜田ゆり子作品もそ
うした範疇に含めるべきで秀逸である。
全てに触れる事が出来ないのは残念だが、
大まかな感想を言えば、今現在の出来
事は即ち現在という時代であり、個々の事
情を越えて横軸として存在する。縦軸とし
ては自分自身の生き方や環境の変化などが
あり、そこでの格闘が優れた短歌作品を生
み出している。日常には時代と自己との接
片があり、そこに詩の源があると確信した
一年間であった。